

論文審査の要旨および担当者

報告番号	甲 第 号	氏 名	藤原 茂樹
論文審査担当者：	主査	慶應義塾大学大学院教授	博士（工学） 高野 研一
	副査	慶應義塾大学大学院教授	博士（システムデザイン・マネジメント学） 当麻 哲哉
	副査	慶應義塾大学大学院教授	博士（政策・メディア） 神武 直彦
	副査	慶應義塾大学理工学部准教授	博士（工学） 中西 美和
<p>（論文審査の要旨）</p> <p>本論文は、「医療機関における医療事故未然防止のための安全文化醸成に向けた研究」と題し、全体で8章から構成されている。論文および発表は、日本語で実施した。同時に英語でのサマリ発表を行った。</p> <p>医療事故防止の機運は、1999年に発生した横浜市立大学の患者取り違い事故を契機とし、その後、次々に発生した医療事故が国民的な大きな関心を呼び、様々な観点から対策が講じられることになった。しかしながら、ヒューマンインタフェース改善やリスクアセスメント等のいわゆる従来型のヒューマンエラー対策ではその効果に限界があることが次第に明らかになり、組織全体としての安全文化の醸成が議論されるに至った。医療分野では安全文化への取り組みは原子力や化学分野に比べ後発で有ったことは否めない。</p> <p>本論文では、病院を主体とした医療現場において発生する事故の背景となった安全文化面の問題に焦点を当てている。研究の流れは、組織安全の観点から作成された各種ガイドライン、安全優良企業の特徴、および過去の重大事故の教訓などから汎用的に導かれた「安全文化の8軸モデル」に基づき、以下の通り、多角的に安全文化の問題を抽出した。①公開された医療事故情報48件の根本原因分析から得られた問題点、②他産業で実績のある安全文化診断手法(アンケート)を適用した医療従事者が現在認識している問題点、③医療従事者を対象とした聞き取り調査により判明した具体的な問題点、これら3つの視点で指摘された問題点を体系的に整理し、安全文化面の向上が期待できる対応施策を検討し、いくつかの医療機関において安全文化の醸成に向けた介入を実施した。</p> <p>第1章では、国内外の医療機関における医療事故防止に向けた研究背景、先行研究について俯瞰するとともに、安全文化研究の現状について概括した。また、本研究の全体の構成について述べ、研究全体の体系化を試みた。</p> <p>第2章では、国内の公開情報から得られた医療事故に根本原因分析を適用することにより、共通的な現状の問題点を数量化Ⅲ類およびクラスター分析により、パターン分類し、①組織内のコミュニケーション(相互理解)不足、②情報共有の不備、③実効的なマネジメント不足、④手順の逸脱。⑤医療・装置の取り扱い知識不足、⑥人員不足による安全配慮不足などの共通的問題点を抽出できた。</p> <p>第3章では、原子力および化学分野実績のある安全文化診断を比較的大規模な臨床研修病院49病院、4967人に適用し、8軸モデルにおける問題を抽出した。その結果、当てはまりの良い共分散構造分析結果を導き、①人員不足による業務量の膨大さ、②処遇や労働条件・労働環境の劣悪さ、③権威勾配が大き、④職務満足度が低い、など8軸における資源管理、動機付けおよび経営者のコミットメントなどの問題に集中していることが分かった。</p> <p>第4章では、アンケート調査による安全文化診断を実施した6病院を対象に診断結果の経年変化および従業員を対象としたインタビュー調査を実施した。その結果、以下の具体的な問題点が指摘された。①人員不足による業務過多、②指揮命令の不明確さ、③安全対策費の欠如、④向上心を育む方策の欠如、⑤職場の5Sの不徹底、⑥業務分担の不明確さ、エラー責任の追及、など2章、3章と共通した安全文化面での問題点が多く指摘された。</p> <p>第5章では、2章から4章までの結果を総括し、安全文化面での問題点が、①組織統率、②相互理解、③危険認識、④資源管理に集中していることを指摘した。また、全ての調査で共通的に指摘された人員不足への対処が対応策の中核であることが明らかとなった。</p> <p>第6章では、安全文化面での共通の問題点への対応策として、①院長による院内ラウンド(巡回し、話し合う)、②師長ミーティング(看護師長のデイリーな話し合いの強化)を実施したが、院内ラウンドでは明らかな安全文化診断結果の向上は認められなかったものの、師長ミーティングでは地道な活動が徐々に浸透していく傾向が観察され、形式的な活動は効果が認められないが、自律的な活動では、組織統率、相互理解に有意な向上が認められた。</p> <p>第7章では得られた結果の考察を行い、安全文化の向上に向けた取組の方向性について考察した。</p> <p>第8章では、医療機関を対象とした安全文化研究の結果を総括し、今後の展望について記載している。</p> <p>本研究は、医療機関を対象とした、過去事例の根本原因分析、組織の安全文化診断、インタビュー調査を行い、体系的に医療機関の安全文化面での問題点を指摘し、今後の改善に向けた介入による効果を示唆し、事故防止に向けた安全文化醸成の具体的課題を明らかとした。医療機関を対象としたこのような実践的かつ体系的な研究は独自のものであり、実用的な意義は極めて大きい。また、医療機関からの安全文化およびマネジメントの改善要求は大変高いものがあり、著者の今後の取り組みにも期待したい。以上により、審査では、全員一致で学位審査の合格を確認した。したがって、本論文の著者は博士（システムデザイン・マネジメント学）の学位を受ける資格があるものと認める。</p>			